

一輪挿しの梅の枝

枝のつぼみが、少しずつ顔をのぞかせる
恥ずかしそうに、上に向かってひろがりはじめ
その横で、凜と前に向かう花びらが、玄関を見つめる
初めての出会い
一瞬の静けさと、からだの中でひろがる柔らかさ
何かにギュツとつかまれたように、時がとまる
互いに触れあうように、愛でながら
こころの柔らかかなところで、根づき始めた梅のえだ